

用語集



表紙 ※1 【VUCA】

Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)の頭文字を組み合わせた造語

P2 ※2 【新時代とやまハイスクール構想】

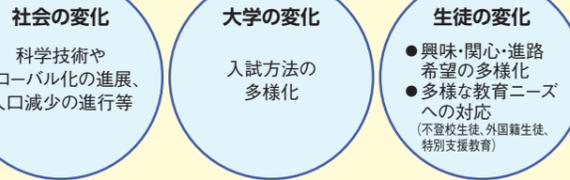
予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、ウェルビーイングの向上を図ることを基本目標として、その実現に向けて令和20年度までに現在のすべての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を設置する。

P3 ※3 【宅地液状化防止対策加速化事業】

液状化対策は基本的に市町村で行われるが、県内被災5市では地下水位低下工法を軸に検討が進められている。事業実施に向けて地域住民の合意を形成するためには将来にわたる住民負担が大きな課題の一つであり、県と5市が連携して取り組むことが確認され、「宅地液状化防止対策加速化基金」を設置して運用益を活用するもの。

「新時代とやまハイスクール構想」基本方針 ～学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり～

令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿
県立高校を取り巻く状況の変化



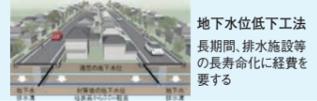
今後の予測が困難な新たな局面の到来

高校生が明るい未来を描き、夢を叶えることができるよう
県立高校における教育のあり方を考える必要がある



宅地液状化防止対策の加速化に向けた県から被災市への支援

- 現状**
- 被災市では、面的な液状化対策について、「地下水位低下工法が有力」とし、検討中
 - 今後は、事業実施に向け、地域住民の合意を形成していく必要
 - 一方、将来にわたる長期的な負担に対する不安が合意形成に向けた大きな課題の一つ



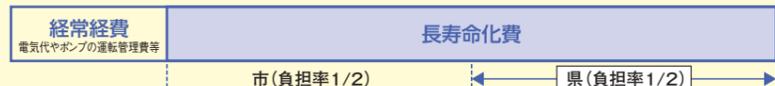
地域住民の不安を払しょくし、液状化対策を加速化する支援を実施

※国に対しては、引き続き、液状化対策の効果を持続して発揮するための財政支援を働きかけ

富山県宅地液状化防止対策加速化事業

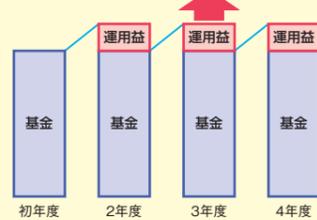
- 対象**: 地下水位低下工法に係る施設等の長寿命化に要する次の経費
①長寿命化計画の策定 ②同計画に基づく集水管やポンプ等の点検・調査 ③点検・調査の結果、必要となる施設等の修繕・更新
- 補助率**: 県1/2 (市の実質負担に対し補助)

液状化対策の効果発揮に要する経費のイメージ



【新】富山県宅地液状化防止対策加速化支援基金の造成
支援が将来にわたり長期間に及ぶことから、新たに基金を造成し、財源を確保
【造成規模】30億円
【財源】市町村振興基金15億円、一般財源(財政調整基金)15億円
【種類】果実運用型※資金(元金)の運用による利息収入等(果実)を活用し事業実施

富山県宅地液状化防止対策加速化事業(イメージ)



最新情報はこちらから→

針山たけし 検索



このまちの自然、歴史、文化を伝える

針山たけし県政報告

発行者 / 自由民主党富山県議会議員会 針山たけし

vol.10

令和8年
2月発行



県議会 2月定例会 予算特別委員会

- 1.安心・安全で持続可能なまちづくりと公共交通について
- 2.能登半島地震からの復旧・復興について

県議会 6月定例会 本会議 一般質問

- 1.令和6年能登半島地震からの復旧・復興について
- 2.交通安全の推進について

県議会 9月定例会 予算特別委員会

- 1.能登半島地震による液状化対策について
- 2.地方創生の推進と新たな魅力づくりについて
- 3.教育の振興について

ごあいさつ

2026年(令和8年)を迎えました。十二支では「午(うま)」、干支では「丙午(ひのえうま)」。本年は火の要素が重なって勢いの強さ、激しさ、情熱を表すとされています。私自身もエネルギーに満ちた活動を意識する年にしたいと考えております。

一昨年(令和6年)の元日に発生した能登半島地震からの復旧復興はまだ道半ば。とくに液状化被害および防止への対応は長期にわたる戦いとなります。自然災害は相次ぎますが絶対に風化させることなく、被災地の地域コミュニティの維持に取り組むことが必要だと考えています。

VUCA(ブーカ)の時代と言われて不確実で不透明、ニーズや価値観が急速に変化する昨今です。明確な目標をもって進んでいくことで新しく変わろうとする社会を捉えながら県政の発展に努めてまいります。

引き続き、皆様の変わらぬご支援、ご指導をお願いいたします。

針山 健史